

Mi-com

武蔵工業大学後援会誌

No. 3

1990-12



晴天のもとに開催された第61回 MIT祭イベント会場にて



物を作る心を大切に



武蔵工業大学後援会副会長

堀越立也



「一国の繁栄は、その国の優れた生産力にかかっている」これは、最近米国のマサチューセッツ工科大学から出版され、日本国内にも大きな反響を呼んでいる「MADE IN AMERICA」という本の書き出しの言葉であります。

かつて、世界で圧倒的な強さを誇っていた米国の経済力の将来を脅かすほど、深刻と思われる工業力の低下（化学・航空機の二分野以外はその市場を諸外国の製品に奪われている）が、何によって起こったかを同大学の調査委員会で二年間にわたり詳細に分析・検討した結論が冒頭の一説であります。

額に汗出して働いた見返りよりも、資金運用した方が身入が多い社会では、人々は働く意義を見失い、短期的な利益追求が経済活動の中心となり、若者の心は製造業から離れました。この就労意識の変化がアメリカ経済を衰退へと向かわせたのです。

一方、日本の発展には高い勤労意欲の国民性が寄与しているといわれてきました。しかし、最近の学生の就職傾向を考えると、その性質が少しずつ変化しつつあるとも感じられます。

この風潮のなか、武蔵工大の学生が将来のエンジニアとして物を作ることの素晴らしさ、大切さを学ぶことは有意義であり、かつ幸せなことです。

「若いうちに汗をかかなければ、年を取ってから涙がでるよ」昔、山陰の寒村の囲炉裏のそばで話したおばあさんの言葉を思い出します。

武蔵工大「大学と父兄との連絡会」

密着レポート(東京地区)

他大学に先駆けて昭和40年代前半から「大学と父兄との連絡会」を実施している武蔵工大——。この連絡会の目的は、大学と父兄が互いに連携を図り、学生の勉学や学生生活における諸問題について協議し、心身ともに健全な学生を育成することにあります。

従来、大学独自の行事であったこの会も、昨年

からは大学と後援会の共催行事となり、その費用も相互で負担することになりました。

さてここでは、平成2年9月30日(日)、武蔵工大キャンパスで行われた東京地区の「大学と父兄との連絡会」の様子父兄のご意見や率直な感想を折り混ぜながら、会員の皆さんにご報告いたします。

台風もなんのその、 熱心な父母が武蔵工大キャンパスに大集合!!

この日は、折りからの台風20号が関東地方に接近中。大雨の中、果たして何人の方が集まるのだろうか、と、大学関係者もいささか不安顔。ところが、いざ、蓋を開けてみれば大盛況! 受付の1号館1階は、受付開始時刻からたくさんの父母で賑わい、中でも両親揃っての参加が目につきました。



▲台風の中、続々と



▲受付の職員も大忙し



▲情報処理センターで技術員の説明に聞き入る▲

情報処理センターは、最新機器がいっぱい。 思わず感嘆の声! 声!

当初のスケジュールでは一番初めに、1号館屋上から約20棟を擁すキャンパスの全景、田園調布の緑や多摩川、また遠くに見える丹沢、そして晴れた日には富士山までも望むことができる絶好のロケーションをその目で確かめるはずだったのに…。何せ、台風の中、予定が情報処理センターの見学に変更されました。

4階建てのセンター内には情報処理機器がいっぱい。学生が利用しやすい開放的な雰囲気です。「パソコンが欲しいって言うわけだわ。大学にこんな施設があるのなら…」と納得していたお母さん。「こんな設備を使いこなしているなんて、自分の子供ながら尊敬してしまう…」と感心していたお母さん。——率直なご意見だと思います。また中には「うちの息子はついていけるのか…」と心配顔のお父さんもいました。



ボリューム満点のランチメニューに、大満足!!

情報処理センターの見学を終えると、もうお昼すぎ。改築中の食堂で、ランチタイムとなりました。食堂内は明るく、緑も配置してあって、なかなかキレイ。今まで、ずっと歩き回っていたので、お腹もペコペコ。ここで、ゆっくり一休み…といったなごやかムードの中での試食会です。メニューは、グリーンピースご飯、焼肉、コロッケ、まぐろの照焼、生野菜、それにジュースなどの飲物付。いつも、学生たちが口にしていない“学食”を味わいながら、皆さんの話も弾みます。「けっこう、おいしいじゃないの」、「思ったより綺麗で清潔な所で作られているから、これなら安心だわ」という声が大多数でした。でも、「本当にいつも、これだけのメニューが揃えられているのかしら」という疑い(!?)の声も…。量は女子学生に対してはちょっとヘビー級、男子学生にとってはまあまあというセン。



▲父母による学生食堂での試食会



▲2つの大教室で満席の父母を迎えて

午後からはキャンパスライフをビデオでチェック。続いて、古浜学長の挨拶。

さて、「満腹、満腹」と機嫌が良くなった所で、向かうは6号館の621教室。ここで、武蔵工大の学校紹介ビデオ、「マイテック・ルネッサンス元年」を鑑賞。部活動の紹介や学生へのインタビューなどで構成されたビデオから、イキイキとした素顔の武蔵工大が感じられました。



▲大学紹介のビデオ鑑賞

より豊かな人間形成へと
語る古浜学長



ビデオの後は所を変えて、古浜学長と堀越後援会副会長の挨拶。「日本の大学教育のレベルが低い」と言われているのはなぜか」というテーマから始まった学長のお話は、「学生たちが大学で何をやりたいのか、それに対して大学はどのように応えるべきかが解決されていない」ことを指摘。それには、「まず自分で深く物事を考えるという習慣や人格づくりが大切だ」と述べられました。「エンジニアは、冷たい、人間味や豊かさ・温かみに欠ける」というイメージを持たれ誤解を受けやすいため、それを跳ね返すアピール度、つまりは人間性を重視した教育が必要だ」というわけです。「将来、『技術屋さんが地球を滅ぼしてしまった』と言われたいように、社会性を持った学生を世の中に送り出したい…。それには一般教育ももちろん大切だが、単位とか授業とかに関係なく、自分たちが独自に自由意思に基づいて行う課外活動を通しての人間形成が最も必要だ」と力説されました。

「忙しいって言いながらも、クラブ活動で頑張っているのは、こういう大学側の姿勢もあるんだな」とご父兄の方々も一様に感心されたようです。

“課外活動をしっかりバックアップ” 堀越後援会副会長の熱い意気込み。

古浜学長に続いては、堀越後援会副会長のお話。主に、後援会の設立目的と活動内容について話されました。学長が目指す課外活動の推進について、父兄も何らかの援助を行うべきだ…という声から後援会が発足したのは一昨年の12月。現在、会員は約2,800名。後援会費により運営されています。本年度の年間予算は7,200万円。主な用途は、学生団体連合会を中心とした学生団体の課外活動への援助です。また、新入生歓迎などの学校行事や厚生施設改善への援助、父兄連絡会の開催や会報の発行にも使われています。「まだヨチヨチ歩きの状態で、組織的にも資金的にも整っていないのが現状ですが、今後とも学生たちの課外活動を中心に、積極的にバックアップしていきたい…」という熱意が感じられたお話でした。



▲学生生活へのバックアップを堀越副会長



▲学科別の研究室見学

レポート、レポート、レポート。 多忙な学生生活が目につかぶ、学内見学。

さて、次は学科別のミーティング。各学年・学科ごとに分かれ、先生方から、学生生活や授業についての説明がありました。「普段あまり口を聞かないから、大学のことがよくわからない」とこぼしていたお父さんも、これで満足されたのでは…。その後、研究室見学、さらに希望者には個人面談も実施されました。

その一つ、電気電子工学科の見学コースでは、「細かい説明を受けても、理解できない機械ばかり。んー、スゴいわねとしか言いようがないわ」と笑って話されるお母さん。説明をしてくださる先生から、学生に対する徹底的なマンツーマン指導の話を聴き、学生たちの苦労の様子を垣間見ることができました。「ここに入学してから、勉強するようになったね。通学には1時間40分かかるし、実験と試験の繰り返しで遊ぶ暇もないって言うてたよ」というお父さんの言葉が胸に染みます。「けっこう勉強しているじゃない」という意見もあれば、その反面「ちょっとかわいそうかしら」という意見もありました。

—午後3時過ぎ「大学と父兄との連絡会」は無事終了。多くのご父兄が「今日一日で、大学の全部とまではいかなくても、大体の感じがつかめて良かったわ」という感想のようです。家路に向かう頃は、雨足がさらに強まり、おまけに風まで吹きつける始末。この悪天候の中、本当にお疲れさまでした。



▲学科、学年別担当教授との活発な質疑応答

今年度当初の景気動向は、前年度に引きつづき好況を維持し、各企業の採用計画にも強く反映されました。上場各企業が打ち出した大卒男子の来春の採用計画状況は、製造業を中心として極めて活発で、全国の今春の採用実績約9万1千名を大幅に上回って過去最高の約12万5千名ということです。

本学の学生に対する求人倍率も学部で43倍以上、大学院で270倍以上となっており、

非常に好調で、学生それぞれが希望する企業に内定を得ています。

しかし、その採用選考基準を詳細にみえますと、決して安易なものではありません。また内外の諸情勢の急激な変化により景気の先行きが懸念され、このままの就職環境が続くとは限らず、楽観は許されない状況です。来るべき就職戦線に備えて、一層の努力が望まれるところです。

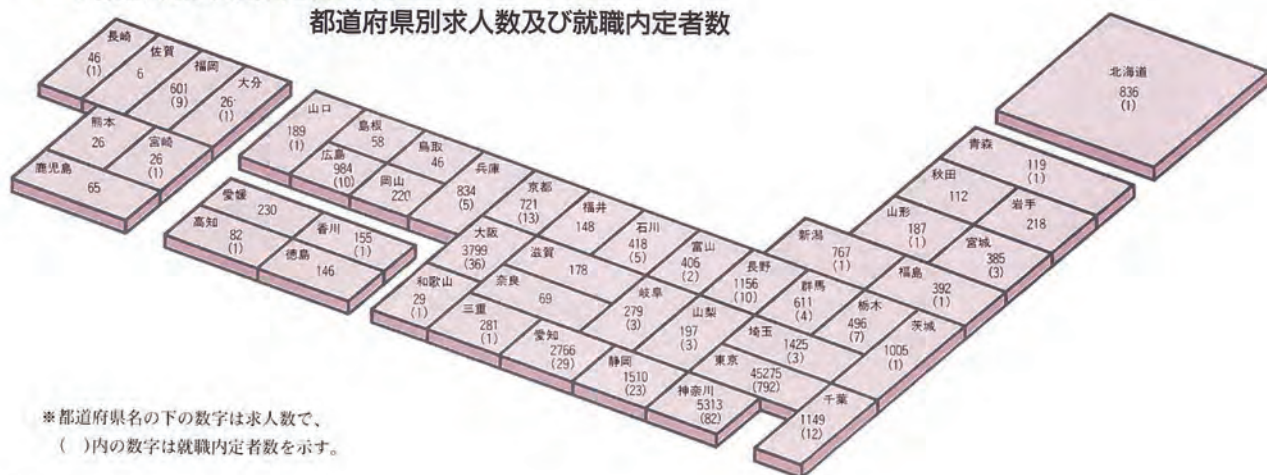
(資料は平成2年11月1日現在、大学就職課より)

■平成2年度求人就職内定状況

項目 学科・専攻	卒業(修了) 予定者	就職 希望者	就職 内定者	就職率 (%)	求人 企業数	1人当り の企業数	求人数	1人当り の求人数	進学 希望者	進学者	その他
機械工学科	332	270	262	97.03	3,765	13.9	8,154	30.2	53	47	9
電気電子工学科	225	181	174	96.13	3,815	21.0	8,334	46.0	42	40	2
電子通信工学科	128	114	109	95.61	3,158	27.7	7,158	62.7	13	13	1
建築学科	138	115	108	93.91	2,864	24.9	6,864	59.6	22	17	1
土木工学科	130	110	100	90.90	2,688	24.4	6,343	57.6	18	14	2
経営工学科	214	197	187	94.92	2,812	14.2	6,295	31.9	13	13	4
小計	1,167	987	940	95.23	19,102	19.3	43,148	43.7	161	144	19
機械工学専攻	24	23	23	100.00	2,330	101.3	5,358	232.9	1	1	0
生産機械工学専攻	16	15	15	100.00	2,229	148.6	5,215	347.6	0	0	1
電気工学専攻	50	49	48	97.95	2,359	48.1	5,412	110.4	0	0	1
建築学専攻	13	13	13	100.00	1,923	147.9	4,731	363.9	0	0	0
土木工学専攻	10	9	9	100.00	1,879	208.7	4,637	515.2	0	0	1
経営工学専攻	12	11	10	90.90	2,026	184.1	4,868	442.5	1	0	0
原子力工学専攻	7	7	7	100.00	1,773	253.2	4,473	639.0	0	0	0
小計	132	127	125	98.42	14,519	114.3	34,694	273.1	2	1	3
合計	1,299	1,114	1,065	95.60	33,621	30.1	77,842	69.8	163	145	22

■平成2年度卒業見込者に対する

都道府県別求人数及び就職内定者数



■平成2年度就職内定先上位50社

順位	企 業 名	工 学 部						大 学 院						合 計	
		機 械	電 気	通 信	建 築	土 木	経 営	機 械	生 産	電 気	建 築	土 木	経 営		原 子
1	株式会社日立製作所	6	2	3			7	1		3					22
2	株式会社東芝	4	2	3			4		2	2				1	18
3	富士通株式会社	3	2	4			5	1					1		16
4	日産自動車株式会社	4	2	2			3	4							15
	山武ハネウエル株式会社	5	2	1			5			1				1	15
6	日本電気株式会社	4	1				6			2			1		14
	大成建設株式会社		2		6	5					1				14
8	沖電気工業株式会社	4	2	3			3								12
	オリンパス光学工業株式会社	4	2	1			1			4					12
	パイオニア株式会社	4	2	2			3			1					12
11	ソニー株式会社	4	1	2			2		1				1		11
	三菱電機株式会社	4		3			3			1					11
	本田技研工業株式会社	6	2					2		1					11
14	株式会社リコー	1	3	3			2			1					10
15	松下電器産業株式会社	3	2	2			1			1					9
16	日本アイ・ビー・エム株式会社	1	1				4	2		1					9
	キヤノン株式会社	2	2	2			1			2					9
	三菱自動車工業株式会社						1	1							9
	石川島播磨重工業株式会社	3	2					1	1	1				1	9
	鹿島建設株式会社				3	2	1				3				9
22	松下通信工業株式会社	3	2	2			1			1					9
	キヤノン販売株式会社	2	1	1			4								8
	株式会社荏原製作所	6	2												8
	戸田建設株式会社				7	1									8
	アンリツ株式会社	2	2	3			1								8
26	清水建設株式会社		1		4	1			1						7
	富士ゼロックス株式会社	1	1	1			2		1				1		7
	日本ビクター株式会社	3	2	1			1								7
29	日本電信電話株式会社	1	1		1	1				1		1			6
	三菱重工業株式会社	3	2	1											6
	トヨタ自動車株式会社	2	1					2		1					6
	東海旅客鉄道株式会社	2	1	1		1	1								6
	マツダ株式会社	5	1												6
	スズキ株式会社	3	1	1				1							6
	株式会社ニコン	1	2	1			2								6
	横河電機株式会社	1	1	1					1	1			1		6
	横浜ゴム株式会社	2	1				2		1						6
	日本電気エンジニアリング株式会社		2	4											6
40	東京都庁	1				4						1			6
	東日本旅客鉄道株式会社	3		1			1								5
	積水ハウス株式会社				4	1									5
	いすゞ自動車株式会社	4						1							5
	フジタ工業株式会社				4	1									5
	株式会社CSK	1	2	1			1								5
	東陶機器株式会社	2	1		2										5
	飛鳥建設株式会社				2	3									5
	株式会社ケンウッド	1	3	1											5
	千代田化工建設株式会社	2			1	1	1								5
	日本エヌ・シー・アール株式会社		2				3								5
	横河・ヒューレット・パッカード株式会社	1	1	1				1		1					5
	日本デジタルイクイップメント株式会社	1	2				1						1		5
	セイコーエプソン株式会社	1		3			1								5
	京葉瓦斯株式会社	1	1			1	2								5

第1種国家公務員試験に
武蔵工大生5名合格

平成2年度の第1種国家公務員試験の合格者2,047名(うち女子は199名)が発表され、その内訳は国立大学が東大の486名を筆頭に1,631名、公立大学が73名で私立大学が339名、ほか4名となっている。

私立大学では早稲田大学が97名でトップで以下は下表のとおりとなっている。

本学からの合格者は5名で私立大学ではベスト10位、全国の大学でも48位となり、学生数が少なく、工学部だけの単科大学である武蔵工大にとっては大健闘と言えよう。

これは、大学で開講している公務員講座の効果が現れてきたものと関係者は今後に期待をよせている。

第1種国家公務員合格者数
ベスト10大学(私立)

- ①早稲田大学 97(7)
- ②東京理科大学 56(4)
- ③慶応義塾大学 45(6)
- ④中央大学 19(2)
- ⑤明治大学 16
- ⑥上智大学 12(2)
- ⑦日本大学 10(1)
- ⑧同志社大学 7
- ⑨明治薬科大学 6(1)
- ⑩武蔵工業大学 5
- ⑪立命館大学 5

()内の数字は女子学生数で内数。

「学生たちにイキイキとした毎日を送ってほしい…」というご父兄の願いを少しでも実現するために、後援会では学生の課外活動へ惜しみなきバックアップ体制を整えています。

今号から、これらのクラブ活動団体の状況について、シリーズで紹介します。

第1回目は、永年、武蔵工業大学学長杯争奪大学対抗英語討論大会を開催している英会話研究部(E S S)と、年々若い人たちに人気上昇中のアメリカンフットボール部を紹介いたします。

「ディベートコンテスト」に見る武蔵工大ESSの活動

「ディベートコンテスト」って、ご存じですか？これは、自分の意見を主張する弁論大会と違い、一つのテーマについて定められたルールに従い、対抗する二組が肯定側、否定側に立って討論するコンテストのことです。これを英語で行うのが、毎年、武蔵工大主催で開催される大学対抗の「武蔵工業大学学長杯争奪英語ディベートコンテスト」。資料はあるものの台本はないため、かなり高度な英語力と瞬時の判断力が必要とされるものです。さてここでは、平成2年10月21日(日)、今年で25回目を迎えた同大会の様を通して、武蔵工大英会話研究部(ESS)の活動をご紹介します。

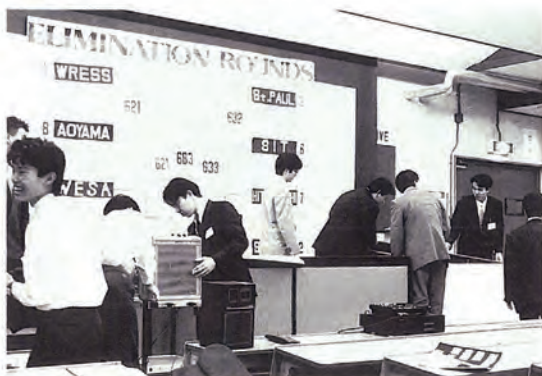


▲大会の進行を務める刀根啓介部長(経営3年)

武蔵工大学長杯争奪ディベートコンテストって何？

この大会は、昭和40年「自分たちの力で大会をつくりたい」という当時のESSの部員が主となり、わずか4大学の参加によってスタート。年を重ねる度に参加校が増加し、今では参加大学31、文部省の後援を受けるなど、対外的にも注目を浴びる大きな大会に成長してきました。25年もの間、毎年開催されているのは、他大学では上智大学くらいで、日本で最も古い大会となっています。

このディベートコンテストは、対戦前にクジを引き、賛成チーム・反対チームをあらかじめ決めることから始まります。今回のテーマは「日本政府は日本の軍事力を縮小すべきである」。各チーム3人制で、発言はひとりずつというルールのもとで行われました。また審査員は「生きた英語」を使っている民間企業の方や、大学教員、学生など各方面から人選し、偏らない審査を目指しているそうです。



▲決勝戦の会場づくりに働くESS部員

英会話研究部(ESS)

顧問：高山誠太郎教授
部長：刀根啓介(経営工学科3年)

部員数：43名

ESSは伝統ある学生団体の一つ、日常英会話能力向上のためのトレーニングをはじめとして、対外活動においてはディベート、ドラマ、ディスカッション、スピーチ等の活動に積極的に取組んでいる。中でも同部が主催している「学長杯 学長杯争奪ディベート大会」は、関東の国公立大学が参加する25年の伝統ある大会となっている。

なお、この大会の優勝校には、武蔵工業大学後援会会長賞が授与されている。



▲取材に応じてくれたスーツが似合う部員
左から田岡智浩君(電気1年)、鶴木洋行君(電気1年)、横裕司君(経営2年)、常木隆夫君(経営2年)

武蔵工大ESSの部員は、みんな英語が得意!

大会の運営進行はすべて、学生の手によるもの。主催校武蔵工大のESS部員43名は、この日のために、2週間前から準備を開始したそうです。大がかりな内装に、準備の苦勞がうかがえます。さて今大会では、スーツでキメてさっそうとしていた部員の皆さん。"普段はどのような活動をしているのだろう..."と、刀根部長と倉原大会実行委員長にお話を伺ってみました。基本的には週4回、お昼休みに15分間くらい集まり、ビデオを使ったり、英語の歌を歌ったりという昼のトレーニングを行っているとのこと。サークル内ではディベート、ドラマ、スピーチなど各セクションに分かれた活動を実施して、学外の大会に積極的に参加しているとのこと。また8月には、4泊5日の合宿があり、上級生から下級生へ、英語の技術的な事などの指導があるそうです。

9月には鎌倉に向き、外国人観光客相手に英語でガイドをするなど、積極的な活動も行っており、歩いている外国の方にいきなり声をかけて話す練習をするという、とってもユニークな活動もあるそうです。当たって砕けろって感じで度胸が養われる、そんな積極的な姿勢がとても清々しく思いました。



▲倉原和成大会実行委員長(土木3年)

やっぱり、サークルは楽しいのが一番。
友だちがいっぱいできるから嬉しいな。

ESSのうたい文句は"友だちをつくろう"。そのため、ほとんどの人がサークルに入って友だちが増えたそうです。「他大学との交流もあるので、女子学生とも知り合えるし(?)、何より視野が広がるのが嬉しい」と皆、口を揃えて答えてくれました。「フレッシュマンディスカッションが一番楽しかったなあ。」と言っていたのは、2年生の常木君。フレッシュマンディスカッションは、1年生を対象とした親睦会なのだそうです。

文系と違って、課題や実験は多いし、大学に毎日行くのが当たり前の武蔵工大生。勉強とサークルの両立が大変なのでは? と聞くと、それほどもないようです。刀根部長の「要は、時間の使い方ですから…」という言葉が頼もしい!!



▲大会を除でさえた1年生部員たち



いよいよ、決勝戦。

白熱した英語のやりとりで圧倒！

さて、今度の大会は10月14日(日)に予選が行われ、武蔵工大からは、2チームが出場。しかし残念ながら9位にとどまり、上位8チームが集まる21日の準々決勝には進出できませんでした。——というわけで、武蔵工大ESSの学生たちは、大会運営の方に力を尽くすことに…。あと、一息だったのに本当に残念でした。

決勝戦は、21日(日)の午後3時30分。準決勝の審査が長びいたため、遅れること30分、6B3教室でいよいよ決勝が始まりました。決勝進出を果たしたのは、早稲田ESAと一橋大学ESS。接戦を勝ち残ってきた両チームだけに、その落ち着いた雰囲気はさすがです。

クジの結果、肯定意見は早稲田、否定意見が一橋が決まりました。まず、早稲田が先行。持ち時間内で、肯定意見を述べます。そして、一橋がそれらについて質問し、早稲田が答弁。今度は、立場を逆にして、同じように繰り返されていくわけです。時間内で、たくさんの内容を述べなければならぬので、もの凄いスピードで英語をまくしたてなければなりません。壇上の発表者はもちろんのことながら、審査員の方々も大変です。終始ハアアッと感心の溜め息をつきながら、約2時間にわたる熱いディスカッションを観戦しました。その結果、第25回武蔵工大学長杯は早稲田ESAが獲得。こうして、31校がしのぎを削ったこの大会も無事にクロージングセレモニー(表彰式)を迎えたのです。

クラブ活動を通して、友だちを増やし、視野を広める——そんな武蔵工大生の姿をこの一日で垣間見た気がします。審査員の皆様、出場者の皆様、そして大会運営の間に取材にに応じていただいた武蔵工大ESSの皆様も納得のいく大会ではなかったでしょうか。来年も、再来年もこの伝統ある大会を盛り上げて、頑張ってください。



決勝戦開始までの、ひとときの休憩時間



▲早稲田大学ESAチーム(優勝)



▲一橋大学ESSチーム(準優勝)

武蔵工大アメリカンフットボール部・ヘリオスを観戦



アメリカンフットボールといえば、男たちが体を張ってぶつかり合う、汗ほとばしるカッコいいスポーツ。その試合が、秋晴れの11月3日（文化の日）、武蔵工大多摩川グランドで行われました。ここに、その時の武蔵工大V S 拓殖大学のフットボール観戦レポートをお届けしたいと思います。

「ヘリオス」は、熱気あふれるファイターの集まり。

武蔵工大アメリカンフットボール部は、「ヘリオス」と名づけられ、総勢54名の部員となかなかの一大所帯です。この中からレギュラーとして選ばれるのは22～25人。シーズン中は7時からの朝練と、放課後の練習で、かなりハードな活動のようです。武蔵工大が所属している関東大学リーグ2部は7校で構成されており、2シーズン（春は秋のためのオープン戦）制で行われています。現在の戦績は1勝1敗1分。接戦を繰り返しているところです。今日の相手は拓殖大学で、今後リーグ戦の上位進出をはたすためには大事な試合で、午後2時15分からの試合に先立ち、部員から「ウォーッ」というかけ声が上がりました。全員の集中力がヒシヒシと伝わり、いよいよキックオフ!!



▲闘志満々いざ戦場へ……

体力的にもキツイ、アメフト。その魅力って？

さて、迫力満点でありながら、ぶつかり合いのスポーツだけにケガもつきもの。体力的にも、精神的にも結構辛いのでは…とその疑問を試合前に、主将の荒井克彦君（電気



▲荒井克彦君(主将)

4年)に聞いてみました。この荒井君、高校時代は剣道をやっていたそうです。チームをまとめて、引っ張っている彼は、「アメフトはケガも多いけど、精神を集中して一生懸命になれる点に面白さを感じます。」と言っていました。「厳しいこともあるけれど、こういうことって、社会に出てから必ず役に立つと思うから…」との言葉に同感！学生時代に熱中できるものを見つけ、それに取り組むということは、難しいもの。熱中できるものがあるということ自体が、とても素晴らしいと思いました。4年生の彼は引退まであと3試合。「将来はアメフトを考えていないので、燃えつきたい」とのこと…。きっと、全力で頑張ってくれることでしょう。



▲はじける青春激突



▲きびしさが増してきた荒川助監督



アメリカンフットボール部(ヘリオス)
顧問: 古賀浩二郎教授
主将: 荒井克彦(電気電子工学科4年)
部員数: 54名

アメリカンフットボールは、年々大学スポーツとして人気が上昇中です。当部も学生団体の中でも部員数の多い団体である。現在、関東学生フットボール連盟の2部リーグに所属し、OBのコーチ陣の献身的な指導のもとに、夏合宿から秋のリーグ戦に向けて厳しい練習が続けられている。また、毎年6月には大阪工大との東西交流戦が行われており、これに対して後援会から援助が行われている。

フットボールに熱中できる環境づくりのために…。

父兄・OBの役割は偉大。

今度は、この若いチームを育てるOBの備前島監督、荒川助監督をはじめとしたコーチ陣に、「ヘリオス」を通して見た学生たちの姿についてお話を伺いました。「今の学生は、すぐに、あれもこれもしたがる傾向があります」といきなり、ちょっとキツイお言葉。「うちのクラブでは、まず精神面から教えていますので、社会に出てからも礼儀など役立つはずですよ」と、運動部らしい答えが続きます。「でも、うちのチームは非常にまとまっていると思います。痛い・苦しいという練習によく耐えていますしね」とのことです。練習は反復練習が主。今はメディアの時代だから、一般情報でゲームそのものは理解できるけど、本当はドロクさいことをしなければ上手くならない…ということ体を覚えさせるのがポイントなのだそうです。

現在、OB会も充実し、フットボールの父兄会も発足したのでクラブに対する理解が大変深まってきたそうです。「なんといっても、両親の理解がないとできないスポーツですから……。恵まれた環境に感謝して、よりよいクラブづくりを目指したい!!」と。さらに、「クラブの良さはタテヨコのつながり。クラブをやる学生より、はるかに友人も増えるので、人生においてプラスになると思います。勉強なども助け合っているようですし……。」



▲友情が芽生える

結果よりも、どれだけ一生懸命か…が大切。

さて試合は、前半、試合開始直後再々タッチダウンを奪われ、拓殖大ペースで進められましたが、気合では勝るとも劣らない迫力があり、後半は互角の戦いでしたが、結果は28-7の完敗。途中、負傷する選手も何名か出て、アメフトの凄まじさを目の当たりにした気がしました。白熱した試合に、選手一人ひとりに応援席から温かな拍手が送られましたが、選手たちは悔しさで一杯。涙を浮かべる学生も…。でも、本当に一生懸命戦ったのだからと、心からエールを送りました。光る汗や涙は美しいですね。貴重な青春の一ページをこうして刻んでいっているのだと思います。

最後に4月からマネジャーになった武蔵工大・東横短大・日本女子大の女子大生6人から一言。「親切で、気がきいて、いい人が多いこのクラブ。マネジャーの仕事は大変だけど、選手のために役立っていると思うと満足! やりがいがありますね。」

皆さん、ケガにも負けず、これからもいい試合を見せてくださいね。また、観戦しに行きたいと思います。



▲マネジャーは戦場の花

課外活動を中心とした 最近のキャンパスライフ



学生部長
佐藤 三 祿
(機械工学科・教授)

昭和63年12月に父母有志の方々のご尽力により本会が発足し、学生の課外活動を中心とした援助事業が開始されて以後、学生生活は確実に変化してきています。

1. 学生団体連合会の資金基盤の確立

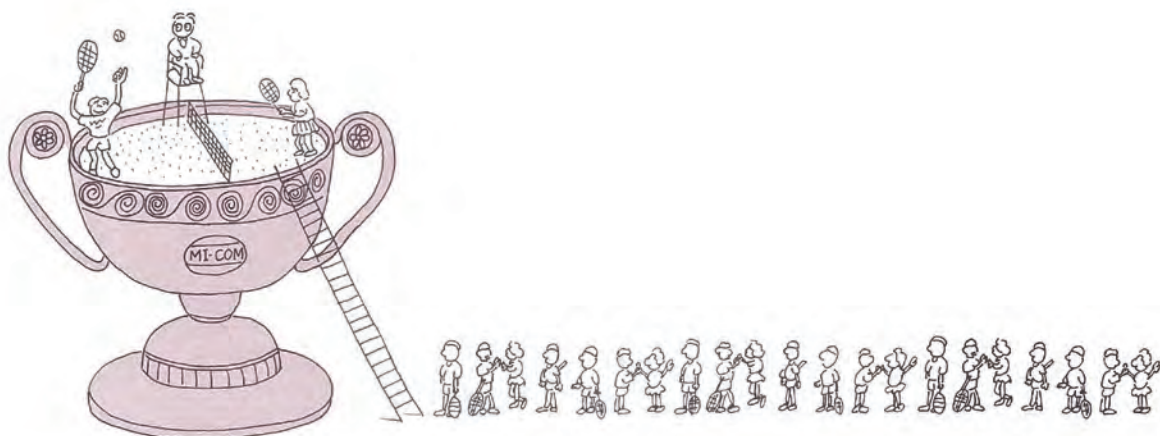
変化の第一は何んと言っても学生団体連合会、(以下“学団連”と約す)の基盤確立であります。昭和40年代の学園紛争を経て学生自治組織は統率力を失い、その一部であった課外活動の統括組織も存立基盤を失い活動資金の確保が難しい状態にありました。これは学園紛争の後遺症でありその対処は大学の問題でもありました。一方、人格育成を目的とする新しい時代の大学教育にあって学生の課外活動が果す教育的役割が重視されるようになり、本学においても教育の大きな柱と位置づけられるようになりました。

これらの状況下において、昭和63年1月に課外活動統括組織として学団連が結成されたことは大いに意義あることであり、現在各大学の学生生活指導関係者の間で新しい学生組織のあり方として注目されています。しかし学団連が実質的な活動能力を備えることができたのは後援会による活動資金援助体制が確立したことによります。現在は体育会、文化団体連合会をはじめとする学団連の構成団体が全学的視野をもって協調出来るようになってきています。この事により学生と大学の間の信頼関係もキャンパスライフにふさわしい健全な状態にあります。

2. 大学と学団連共催行事の「新入生歓迎 スプリングフェスティバル」を実施。

学団連の活動で注目すべきものとして昨年度から始めた4月の入学式当日に行われるスプリングフェスティバルがあります。新入生を全学の学生、教職員で歓迎しようという行事で大学と学団連の共催で行われます。学生団体による各種パフォーマンス、全学昼食会、講演会などを学団連と大学学生部の教員との協力の下で、実施しています。学団連の健全な成長を示すものと言えます。





3. 学長と学生との懇談会を開催

1990年10月4日(水)に古浜学長と学生有志25名とで「豊かなキャンパスライフのための懇談会」が開かれました。学生の意見を直接聞きたいという学長の意向と、キャンパスライフにおける疑問や注文を学長に直接聞いてもらおうという学生達の希望がマッチして懇談会の開催となりましたが、本学では画期的なことでもあります。懇談会のための準備や予備交渉などは学団連関係の旧役員が中心となり進められました。元体育会会長 海崎 隆君(電気電子工学科4年)の司会で実に3時間余りにわたって整然と有意義なディスカッションが学長と学生の間で行われました。これも学団連活動があってこそその成果と言えます。



▲男子ダブルス優勝者、左より市川博紀君(機械3年)、塩原潤一君(経営3年)

この行事は学生部と体育教室が後援して10月第1週から11月の第3週にかけて学生、教職員合わせて180組余りが参加して開かれました。この行事で見られた学生の企画力、実行力は大いに評価されるものであり、今後本学の名物行事となっていくことと思います。学生と教員が協力してキャンパスライフを豊かにしようという雰囲気が出て来ています。



▲学長と学生の懇談会風景

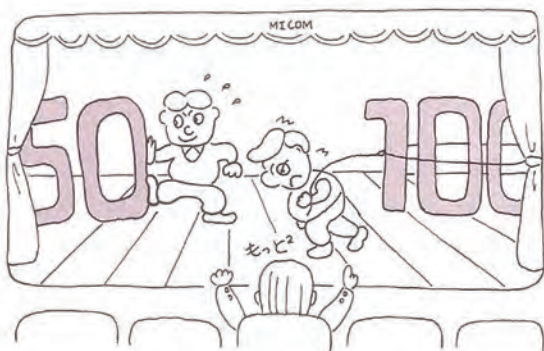
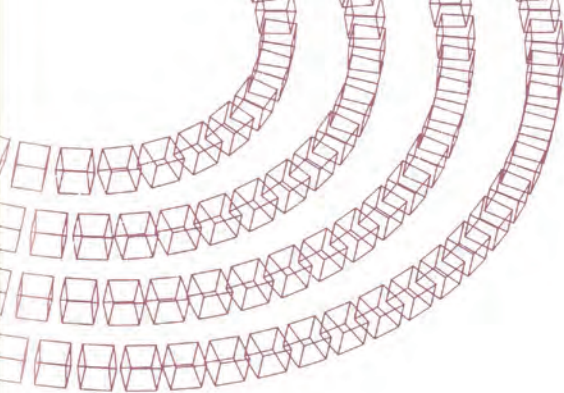
4. 第1回学長杯 Mi-Tech テニストーナメント'90

年間を通じてキャンパス内にスポーツイベントを展開し豊かなキャンパスライフを実現したいという古浜学長の意向を受けて、テニス関係の学生団体が実行委員会を組織し、本学で初めて全学テニストーナメントが開催されました。

5. 後援会による「課外活動に対する援補制度」の効用

この援補制度は課外活動の新しい展開を可能にしています。補助は活動内容・計画を示して申請し、審査により支給されます。何か新しい企画をはじめたい、あるいは全学の学生を対象とした講習会などのサービスプログラムを提供したいなど、課外活動の新しい展開をもたらしています。全学テニストーナメントなどもこの援助制度の対象となっています。

また、関東地区を代表して全国大会に出場する場合などは、費用補助により選手の負担は軽減されています。



6. 活発な課外活動状況

硬式野球部が、今春、東都大学野球リーグの4部から3部に昇格しましたが、一步でも向上しようという活動展開が意義あるところです。

硬式庭球部の市川紀博君(機械工学科3年)は、平成元年度の関東理工系学生庭球選手権大会シングルス部門で精鋭816人の頂点に立ちました。

ESSの主催する大学対抗ディベート大会は25年の歴史を持つ全国でも権威のある大会で文部省の後援行事となっています。工学部の学生が英語に強いという実力派武蔵工大の見本とも言えます。



▲全国地区放抗戦に出場の武蔵工大ラグビー部

ラグビー部が1昨年につづいて再び全国地区対抗戦に、関東第1区を代表して出場することになりました。この成果は武蔵工大の全学生に大きな自信を与えています。

工学部で勉強しながら全国的な大会にも出場したいと言う、全国の高校生ラグーの間で今、武蔵工大ラグビー部が大きな話題となっています。

課外活動参加学生数は届け出のある者だけでも全学生の50%程あり、他大学に比して高い率を示しています。古浜学長はこれを100%にするべく学生部に指示しています。

7. 地域社会との協調

地元尾山台商店街のイベントや玉堤地区のお祭りの御輿担ぎなどに学生有志が積極的に参加しています。御輿の担ぎ手が不足している状況で学生達の協力は地元との間の良好な関係を作ることに役立っています。

8. 留学生の富士登山

日本に居る間に一度は日本一の富士山に登ってもらおうと、後援会からの援助を得て7月に留学生の富士登山行事が行われました。留学生9名が協力学生2名、引率教職員3名と一緒に登山し、大変好評でした。キャンパスにおける留学生諸君の活動は、学生にインターナショナルな刺激となっており、本学での楽しい留学生活に後援会が寄与しています。

このようにキャンパスライフの活性化の動きが広がってきています。この背景には後援会の援助が大きな力となっています。今後も新築成った部室棟(18号館)や現在改築中の食堂棟(9号館)の学生用備品の援助なども検討されております。全人格的技術者教育を掲げる武蔵工大の教育に対する

父母の皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。次第です。



留学生の富士登山行事

平成2年度「大学と父兄との連絡会」について

今年度の「大学と父兄との連絡会」は昨年より5会場を増して全国20ヶ所で開催され、6月30日の広島市を皮切りに9月30日の東京(大学)までの間、主に週末を中心に開催されました。

後援会の発足に伴い昨年から、大学との共催行事として全国を対象として開催していますが、開催都府県と他の県との出席率の差が大きくなり、また両親での参加が増加傾向にあります。

なお、各会場の出席状況は下記のとおりですが、各地の評議員の方々には会の運営等にご協力をいただきました。

■平成2年度「大学と父兄との連絡会」の出席状況

開催地	開催日	会場名	対象県	対象者数	出席者数	出席率	前年度出席率
釧路	9月8日(土)	釧路東急イン	北海道	56(名)	21(名)	37.5(%)	17.2(%)
札幌	9月9日(日)	K K R 札幌					
盛岡	9月8日(土)	ホテル・ロイヤル盛岡	岩手	16	11	68.8	40.0
			青森	10	2	20.0	0
			秋田	20	5	25.0	4.7
			宮城	19	3	15.8	57.1
			山形	11	1	9.1	25.0
福島	9月9日(日)	福島ワシントンホテル	福島	41	15	36.6	4.3
水戸	9月29日(土)	水戸京成ホテル	茨城	75	31	41.3	13.6
千葉	9月23日(日)	幕張メッセ	千葉	222	22	9.9	7.6
東京	9月30日(日)	本学	東京	1,066	144	13.5	10.9
			神奈川	4,480	201	13.6	12.7
			埼玉	278	29	10.4	11.1
			栃木	60	8	13.3	37.0
			群馬	49	4	8.2	42.9
甲府	9月1日(土)	甲府ホテル	山梨	59	23	39.0	43.1
松本	9月2日(日)	スピカイン	長野	106	34	32.1	27.4
新潟	9月16日(日)	ホテルイタリヤ軒	新潟	46	26	56.5	12.5
富山	9月15日(土)	富山東急イン	富山	38	18	47.4	11.4
金沢	9月14日(金)	金沢都ホテル	石川	46	15	32.6	37.5
			福井	10	3	30.0	27.3
静岡	9月11日(火)	静岡第一ホテル	静岡	209	72	34.4	31.5
名古屋	9月10日(日)	名古屋東急ホテル	愛知	75	27	36.0	23.5
			岐阜	25	5	20.0	17.6
			三重	36	5	13.9	15.8
大阪	9月9日(日)	大阪ガーデンパレス	大阪	21	9	42.9	21.7
			滋賀	5	2	40.0	0
			京都	10	2	20.0	28.6
			奈良	5	5	100.0	75.0
			和歌山	11	1	9.1	0
			兵庫	22	6	27.3	23.5
岡山	7月1日(日)	岡山東急ホテル	岡山	28	20	71.4	12.0
			香川	7	2	28.6	25.0
広島	6月30日(土)	広島ガーデンパレス	広島	89	52	58.4	44.7
			山口	30	6	20.0	25.9
			鳥取	12	1	8.3	16.7
			島根	10	3	30.0	9.1
高知	7月2日(月)	ホテルサンルート高知	高知	10	8	80.0	25.0
			愛媛	15	2	13.3	40.0
			徳島	12	2	16.7	0
福岡	9月9日(日)	ホテルステーションプラザ	福岡	39	15	38.5	48.6
			佐賀	4	1	25.0	33.3
			長崎	11	0	0.0	54.5
			熊本	7	5	17.4	14.3
大分	9月8日(土)	大分パークインホテル	大分	21	14	66.7	15.8
			宮崎	11	2	18.2	44.4
			鹿児島	7	1	14.3	50.0
			沖縄	6	1	16.7	0
合計				4,446	885	19.9	16.4